

▶ 申込方法

- 受講登録方法 ……………①東京科学大学様専用Forms(講義動画視聴用) + ②本学専用Forms(課題提出用)から登録
- 講義動画の視聴方法 …… 東京科学大学様のLMSからオンデマンド講義を視聴いただきます。
受講登録開始時期、視聴期限等につきましては、本学がんプロHP (<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/>) にUPいたしますので、ご参照願います。
- 修了証の発行について
コースの修了要件を満たした場合に修了証が発行されます。修了要件につきましても、本学がんプロHP「7大学連携校共通インテンシブコース」をご参照願います。

シンポジウム・公開講座等

●多職種協働市民公開シンポジウム ●市民公開講座 ●セミナー ●教育ワークショップ

対 象： 本学・連携校の大学院生・教職員、本学グループ病院・連携7大学附属病院教職員、医療従事者、
その他、連携校およびWG責任者が受講を認めた医療従事者、一般市民の方

本学がんプロでは、毎年2～3回、参加無料・ハイブリッド開催(東京赤坂キャンパス + オンライン)でシンポジウム等を開催しています。詳細はがんプロHPをご参照願います。



本学がんプロHP

〈実績例〉 ●多職種協働市民公開シンポジウム ●教育ワークショップ



2023年度
女性のがん 予防と遺伝
— 親から子供に伝えること —



2024年度
脂質性肝臓病から
肝硬変、肝がん



2023年度
がんになったらいくらかかるの？
— 治療機会の損失や
QOLの低下を防ぐために —



2024年度
遺伝性のがんに立ち向かう
— リスク評価と予防支援 —



東京メトロ 銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」A 出口より徒歩3分
東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」から
銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」まで徒歩(5分)で進み、
A出口より徒歩3分
東京メトロ 千代田線「赤坂駅」徒歩8分
東京メトロ 銀座線・南北線「溜池山王駅」徒歩12分



国際医療福祉大学大学院
がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン事務局
〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26
Tel. 03-5574-3900
Email ganpuro-jimukyoku@iuhw.ac.jp



東京赤坂キャンパス
アクセスHP



GoogleMap

文部科学省 「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」採択事業

「次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン」

連携校共通インテンシブコース 国際医療福祉大学責任コース

対象 連携7大学大学院修士課程・博士課程等在学生
本学グループ病院・連携7大学附属病院教職員・医療従事者
その他、連携校およびWG責任者が受講を認めた医療従事者

— がん患者を誰一人取り残さないために — 多職種のチームで取り組む 最先端のがん医療を学ぶ3コース

1 がん学際領域の医療者養成コース (VOD)

腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学などのがん学際領域の発展に貢献できる人材の養成を目的とするコース

コース責任者: 田村雄一 先生



2 がん予防を推進する遺伝医療職育成コース (VOD+実習) ※実習の定員は10名程度

がん発症の遺伝的ハイリスクにある患者やその家族が、予防医療を受けるにあたって生じる、身体的課題・心理社会的課題・倫理的課題の対応できる人材を養成することを目的とするコース

コース責任者: 西垣昌和 先生



3 がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース (VOD + 第8回Zoom)

がんサバイバーを支える多職種医療者を養成することを目的とするコース

コース責任者: 佐藤真由美 先生



「がんプロ」とは … 文部科学省が、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的として実施している「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業

「連携7大学」とは … 東京科学大学を拠点とする、国際医療福祉大学・慶應義塾大学・順天堂大学・東海大学・東京歯科大学・東京薬科大学

※ 「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン(以下「がんプロ」という)」は、第4期がん対策推進基本計画の人材育成の強化として取り組むべき施策
① がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材 ② がん予防の推進を行う人材 ③ 新たな治療法を開発できる人材等のがん専門医療人材を養成する拠点を大学間連携により形成することを目的としています。(文部科学省HPより抜粋)



国際医療福祉大学大学院
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

「次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン」

東京科学大学を拠点校とした首都圏の7大学（東京科学大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、順天堂大学、東海大学、東京歯科大学、東京薬科大学）による、第4期がん対策推進基本計画の取り組むべき施策、①現場で顕在化している課題、②予防の推進、③新たな治療法の開発、に貢献できる多職種のがん専門医療人を養成することを目的としています。

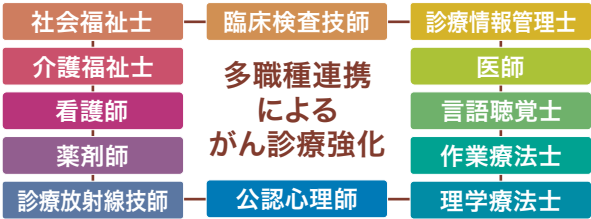
▶ 7大学連携校共通インテンシブコースとは

重要な領域別に7大学連携の独自の14のWorking Group（以下「WG」）が設置され、このWGが中心となり、7大学所属の教員および学外の専門家が協力し、連携校共通インテンシブコースが設置された。

▶ 構成7大学連携



▶ 多職種連携



▶ 本学責任3コース

- 14のWGが作成したコースの内、本学教員がリーダーとなっているWGが設置した次の3コース
- ①連携校共通「がん学際領域の医療者養成コース」（インテンシブコース）
 - ②連携校共通「がん予防を推進する遺伝医療職育成コース」（インテンシブコース）
 - ③連携校共通「がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース」（インテンシブコース）

▶ 3コース共通事項

対 象 … 本学を含む連携7大学およびその関連病院の教職員・大学院生、その他連携校およびWG責任者が受講を認めた医療従事者

受 講 料 … 徴収なし（実習にかかる費用を除く）

修業年限 … 1年（本学責任3コースにかかるコース）

受講形態 … 講義：オンデマンド講義（一部オンライン講義あり）、実習（一部科目のみ）



1 がん学際領域の医療者養成コース

東京科学大学および連携大学の循環器専門医・腎臓専門医・老年内科専門医が中心となり、学内外の各分野の専門家による講義を行う。

▶ 本コースの特色・目的

がん治療の複雑化や分子標的薬の発展及び高齢化に伴い、癌治療を行う際の心血管合併症・腎障害・高齢者におけるがん治療のマネジメントなど、がん治療における学際領域の知識や経験が必要なケースが急速に増加している。そのため、がん治療に従来携わっていなかった医師、歯科医師、看護師、薬剤師、セラピストなどの医療スタッフががん治療の知識を学ぶ必要性、逆にがん治療従事者が循環器・腎臓・老年医学の知識を学ぶ必要性の双方が増している。本コースは連携大学が協力し横断的ながん治療に伴う学際領域の知識を集約して学ぶ機会を提供することにより、がん治療に特有の心血管合併症・腎障害及び老年医学の知識を体系的に学習できることを特徴とする。現場で診療に従事している医療者を対象とするため、e-learningを用いることで受講者の利便性に配慮した受講環境を整備する。

回	授業題目	担当教員（所属）
1	腫瘍循環器学入門①：腫瘍循環器学的重要性・腫瘍循環器のバイオマーカーについて	田村雄一（国際医療福祉大学） / 佐瀬一洋（順天堂大学）
2	腫瘍循環器学入門②：Cancer VTEと抗がん剤に伴う肺高血圧症	田村雄一（国際医療福祉大学）
3	腫瘍循環器学入門③：がん薬物療法に伴う心筋障害と心エコーの評価	田村雄一（国際医療福祉大学）
4	腫瘍循環器学入門④：腫瘍循環器ガイドラインについて	田村雄一（国際医療福祉大学） / 矢野真吾（慈恵医科大学）
5	腫瘍循環器学入門⑤：がん治療に伴う虚血性心疾患と不整脈	前嶋康浩（東京科学大学） / 白石泰之（慶應義塾大学）
6	腫瘍腎臓病入門①：がんと糸球体疾患	伊藤純（国際医療福祉大学）
7	腫瘍腎臓病入門②：がん治療・進行と腎機能の評価	内藤省太郎（東京科学大学）
8	腫瘍腎臓病入門③：がんとAKI、抗がん剤の腎毒性	和田健彦（虎ノ門病院）
9	腫瘍腎臓病入門④：がんとCKD、透析患者のがん診療	松原雄（京都大学）
10	腫瘍腎臓病入門⑤：がんと血液浄化療法～透析を行うか？～	鷲田直輝（国際医療福祉大学）
11	老年腫瘍学① 老年腫瘍学入門（疫学、定義、高齢者機能評価）	浜本康夫（東京科学大学）
12	老年腫瘍学② 治療方針決定（高齢者機能評価、多職種チーム）	樋口肇（国際医療福祉大学）
13	老年腫瘍学③ 老年腫瘍学における臨床研究	平田賢郎（慶應義塾大学）
14	老年腫瘍学④ 老年腫瘍学におけるガイドライン	松岡歩（国立がん研究センター）
15	老年腫瘍学⑤ 高齢者ががん治療における制度（社会的支援、診療加算）	浜本康夫（東京科学大学）

2 がん予防を推進する遺伝医療職育成コース

▶ 本コースの特色・目的

遺伝性腫瘍と遺伝学的に診断された担癌患者の血縁者においては、遺伝学的検査による発症前診断が可能であり、遺伝学的診断に基づいたがん予防医療の高い効果が期待される。一方で、遺伝性腫瘍と診断されることは、当事者に遺伝性疾患特有の心理的、社会的、倫理的な課題が生じることにもつながり、遺伝医療専門職による専門的対応が必要である。本コースでは遺伝医療専門職のがん医療、予防医療の知識・技能を向上し、がん予防医療に強い遺伝医療専門職の養成を目的とする。

▶ 開講科目

2025 年度開講科目名	単位	前期	後期 / 集中
予防医学総論※	2	2	
がん予防カウンセリング学	2		2
がん予防カウンセリング学実習	2		2
がん診療の基礎知識※	2	2	
臨床腫瘍学各論※	1	1	
臨床心理学概論※	2		2

【特記事項】本学開講科目は、「がん予防カウンセリング学」「がん予防カウンセリング学実習」の前に履修しておくことが望ましい。

▶ 実習先施設



国際医療福祉大学三田病院
（東京都がん診療連携拠点病院）



国際医療福祉大学成田病院
（病院機能評価 一般病院3）

3 がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース

▶ 本コースの特色・目的

がんサバイバー・家族に関わる医療従事者は発達段階や発達課題を考慮し、個別性のあるケアの必要性を認識している。しかし、個別性のあるきめ細やかなケアの提供は難しい。本コースではがんサバイバー・家族へのケアをする際に必要な基礎的知識を様々な専門職種から学修することができる。またオンライン授業やe-learning等の学修環境を整備することにより受講生が履修しやすい環境を整備する。連携校にはがんに関する様々な専門職種があり、受講生に対し最新知見の情報を提供できる。さらに多職種が共に学ぶことにより職種の考えを共有出来ることは、現場における多職種連携を学べる点で受講生にとって大きなメリットとなる。

回	授業題目	担当教員（所属）
1	がんサバイバーシップ	渡邊 純一郎（順天堂大学）
2	がん治療とお金、がん治療に活用できる社会的支援・制度	細金操（東海大学医学部付属病院）
3	意思決定支援 1 看護師の立場から	野上典子（順天堂大学医学部付属順天堂医院）
4	意思決定支援 2 臨床心理士の立場から	伽場美穂（静岡県立がんセンター）
5	就労支援	宮田優子（東京科学大学病院）
6	小児がんサバイバーへの支援	村山志保（国際医療福祉大学）
7	小児がんサバイバー家族への支援	上別府圭子（国際医療福祉大学）
8	AYA 世代のがんサバイバー・家族への支援 1	鈴木美穂（マギーズ東京共同代表）
9	AYA 世代のがんサバイバー・家族への支援 2	岡田由貴子（京都大学医学部婦人科学産科学教室）
10	がんサバイバー・家族へのメンタルケア	小川朝生（国立がん研究センター東病院）

講義：がん予防カウンセリング学

回	授業題目
1	がん予防カウンセリング概論
2	がんの遺伝的リスク評価
3	がん遺伝的ハイルスク者のリスク管理①：ハイルスク検診
4	がん遺伝的ハイルスク者のリスク管理②：リスク低減介入
5	がん遺伝的ハイルスク者に生じる身体的課題
6	がん遺伝的ハイルスク者に生じる心理社会的課題
7	がん遺伝的ハイルスク者リスク管理における ELSI
8	遺伝性腫瘍カウンセリング
9	健康行動理論①：個人的・個人内モデル 1
10	健康行動理論②：個人的・個人内モデル 2
11	健康行動理論③：個人間モデル
12	ライフステージ別カウンセリング
13	ケーススタディ 1
14	ケーススタディ 2
15	総括

実習：がん予防カウンセリング学実習

回	授業題目
1・2	ロールプレイ実習：リスクへの適応促進 分析・実践
3・4	ロールプレイ実習：受療行動促進 分析・実践
5・6	ロールプレイ実習：受療行動促進 分析・実践
7・8	ロールプレイ実習：家庭内での情報伝達 分析・実践
9・10	ロールプレイ実習：小児例への対応 分析・実践
11-14	検診施設実習
15	総括

※本コースの修了要件として、上記科目以外に左上表の本学開講科目「予防医学総論」（必修科目）、「がん診療の基礎知識」、「臨床腫瘍学各論」、「臨床心理学概論」（いずれかの選択必修科目のうち、3 単位以上の履修が必要）の履修が必要となります。
詳細は本学がプロ HP をご参照願います。

11	精神疾患をもつがんサバイバーへの支援	竹内崇（東京科学大学）
12	がんと診断されたときからの緩和ケア	結束貴臣（国際医療福祉大学成田病院）
13	がん治療と仕事の両立支援	根岸茂登美（藤沢タクシー社長）
14	地域連携 大学病院に勤務する看護師の立場から	宮田優子（東京科学大学病院）
15	疾病予防、病気の早期発見など保健師の立場から	鈴木穂波（国際医療福祉大学熱海病院）
16	アピアランスケア	猪又知子（順天堂大学医学部付属順天堂医院）
17	チーム医療におけるがん薬剤師の役割	鈴木直人（国際医療福祉大学三田病院）
18	がんのセルフマネジメント	矢ヶ崎香（慶應義塾大学）
19	がんと栄養 栄養サポートチームの役割	高村晴美（国際医療福祉大学成田病院）
20	がん看護外来、がん相談	藤咲麻美（国際医療福祉大学三田病院）
21	がんのリハビリテーション 総論	辻哲也（慶應義塾大学）
22	周術期（術前、術後）のリハビリテーション	小西信子（国立がん研究センター東病院）
23	放射線、化学療法中、外来がんリハビリテーション診療	鈴木克静（静岡県立静岡がんセンター）
24	がん口コモ（骨転移対策含む）	篠田裕介（埼玉医科大学医学部）
25	高齢がん患者とリハビリテーション診療（FIT、UNFIT）	上野順也（国立がん研究センター東病院）
26	緩和ケア主体の時期（進行がん、末期がん）	添田 遼（鶴巻温泉病院）
27	在宅がんリハビリテーション診療（在宅療養中）	島崎寛将（大阪府済生会富田林医療福祉センター）
28	リンパ浮腫、終末期浮腫のケア	山本優一（北福島医療センター）
29	がんと運動、運動腫瘍学	田沼明（順天堂大学医学部附属静岡病院）
30	がんの嚥下障害とリハビリテーション診療	安藤牧子（慶應義塾大学大学病院）